

# 堀田撰津守正敦



6

安藤由紀子

二番目の妻ノブの父であり、忠敬の地図作りのキーパーソンであった桑原隆朝が懇意にしていた幕府の大物、若年寄堀田撰津守正敦について、もう少し。

堀田は寛政二年(一七九〇年)から四十三年間天文方を支配し



天文方は日・月食の予報の誤りなどですくにはれてしまふ、能力のごまかしのきかない役所ではあ



彼の業績は、近世研究になくはならない「寛政重修諸家譜」千五百三十巻と「禽譜」という江戸

## 天文方支配し人材登用 「諸家譜」「禽譜」編さん

た。三十二歳の時伊達家から堀田家へ婿入りしたのだから、三十二年間は仙台藩の公子であり、江戸にいる時は、藩医である隆朝の診察を受けたであろう。隆朝の長男如朗は、正式に堀田の侍医になっている。

その上、堀田は寛政八年に、次女に藩主を失った仙台藩の藩政補佐となつて、伊達六十二万石に対して大きな影響力を持っていた。堀田は若年寄として天文方を支配し、仙台藩からは有能な人材

つたが、養子で補い、世襲で固めたところへ、堀田が大阪から天文暦学者・麻田剛立の高弟、高橋全時と岡重吉を招請した。その決断は見上げたものと言わねばならぬ。

時代最大の情報量を誇る鳥類図鑑(東京国立博物館蔵)千五百十件(編さんである。「諸家譜」は堀田を総裁に林大学以下多数の人を動員して集大成された。この二つの編さん事業で彼の人脉は当時最大であったといえよう。

さらに鈴木氏は、堀田が蘭学、博物学をはじめ、学術・文芸のさまざまな人々のパトロンとして見え隠れし、この博物学の黄金期は「堀田正敦の時代」と呼ぶことができるというおられる。



そして、「禽譜」への協力大名の中に、伊能図の模写注文者が非常に多いことに驚かされる。筆頭老中松平信明もその一人で、東京国立博物館蔵の美しい伊能図は、



伊能隊の測量の様子を描いた「浦島測量之図」(宮尾幾次氏寄託、広島県呉市入船山記念館収蔵)の一部(千葉県立中央図書館所蔵の「館報入船山第七号」から)

この家から寄贈されたものだ。伊能図は博物学の流行と無縁ではないと思われる。

「諸家譜」と「禽譜」の外に「伊能図」のプロモーターでもあったとしたら、堀田正敦は、もっと顕彰されるべき人物であろう。

このうちだが地図作りの仕事人だったかは分からない。本当は時の勢いというものかも知れない。

(注1) 天体の動きを示す模型 (注2) 1760-1817. 吉田藩、現在の豊橋市の大河内松平家